

小樽堺町通り商店街振興組合は12、22日、割引などの特典があるイベント「マジでダイハンジャー祭り」を開く。新型コロナウイルスの感染拡大で観光客が激減する中、普段はあまり訪れない地元の人にも足を運んでもらう狙い。小樽商科大生が考案した、店舗を巡りながらビンゴを完成させる催しもあり、店との交流も楽しめる。

イベント名は、主要店舗の7月の売り上げが前年比8割低下するなど深刻な状況をユーモアを交えて表現した。割引サービスは加盟93店のうち23店が参加。このうちベビーカーステラ店「松露庵」は先着30人限定で5個増量し、大正硝子館は購入額に応じて商店街のスイーツや食事券をプレゼントするなど、各店が工夫をこらした特典を用意する。

12、13両日は小樽商大生企画「ビンゴでまわろう、堺町」。受け付けテントで配布

## 商大生企画 ビンゴゲームも

### 堺町商店街 12日からイベント



店舗を巡りビンゴを完成させるイベントを企画した小樽商大の幕内さん（左）と参加店の店主

されるビンゴカードに写真が載った店主や店員と店舗で会うスタンプがもらえ、イクラ丼（2200円相当、限定10食）などの景品が当たる。同大の幕内志歩さん（20）は「触れ合いを通じ再訪につながる」と企画の狙いを話す。

19、20日は商店街振興組合所属の男性3人でつくる自称「アイドルグループ」がサイン会を開き、各日先着250人にルタオのソフトクリームを贈る。振興組合の坂口武・事業推進マネジャーは「商店街の現状は厳しいが、前を向いて頑張る」と話している。（前野貴大、宮本夕梨華）

# 塩谷・桃内の歴史 後世に

地元住民が「まちづくり推進委」



設立総会の会場で「これまで小樽の歴史・文化の発信は中心部ばかりだった」と、塩谷・桃内を含む広域に光を当てる意義を話す高野宏康さん（左から2人目）と前田正夫会長（同3人目）ら

## 相次ぐ文化財発見 地域のルーツ探る

小樽市塩谷・桃内地区の歴史や文化を発信する市民団体「塩谷桃内まちづくり推進委員会」（前田正夫会長）が8日、設立された。北前船の船乗りたちが航海安全を祈願して奉納した船絵馬など「日本遺産」「北前船寄港地・船主集落」に関連した文化財が今年に入り塩谷地区で相次いで発見されたことを足がかりに、地域のルーツを探り、まちおこしにつなげる狙いだ。（鈴木孝典）

市塩谷サービスセンターで開かれた設立総会には住民ら約20人が出席。前田会長が、明治〜大正期の船絵馬30面が見つかった塩谷神社や、幼少期を塩谷で過ごした文豪・伊藤整の母の生家など、地域の豊かな歴史を紹介し「大切な遺産を後世に残していきたい」とあいさつした。

続いて同会顧問に就任した小樽商科大の高野宏康客員研究員が講演し、塩谷神社に近い徳源寺の龍神堂正面入り口にあるこま犬が、福井県で産出され北前船で全国に運ばれた笏谷石で造られ、北前船の歴史を色濃く反映していることなどを解説。「地元でしか知られていない豊かなものを発信していくことで、塩谷の文化が開けて来るはず」と力を込めた。

市内には「小樽・朝里のまちづくりの会」や「おたる祝津たなげ会」など地域史や文化を発信する住民組織が各地にあり、前田会長は「将来はさまざまな団体や個人と連携し『オール小樽』で歴史を後世に残していきたい」と話す。

同会は10月に高野研究員の講演会を検討しているほか、地区内外から会員（推進委員）を募集している。問い合わせは前田会長 ☎0134・26・280055へ。